

平成29年度 学校自己評価システムシート（県立不動岡高等学校）

目指す学校像	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成 科学教育と国際理解教育の拠点校として地域文化への貢献
重点目標	1 教育活動及び学習活動の工夫・改善を図り、「これからの時代に求められる力」を養成する。 2 学力を向上させるとともに高い志を育み、第一志望校への進学を実現する。 3 「質実剛健」「明朗質素」「文武両道」を日々実践する生徒を育成する。 4 さまざまな機会を通じて「不動岡高校ファン」を増やす。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局（教職員）	7 2 9	名 名 名
-----	-------------------------	-------------	-------------

学 校 自 己 評 価				学 校 評 価 (2月1日現在)		学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日現在)		実 施 日 平 30年2月14日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況【学】…学習状況調査	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○本校生徒の実態をふまえ、進路希望の実現につながるアクティブ・ラーニング的な指導法、学習法の研究及び実践が必要である。 ○SSH/SGHの成果を生かした教育活動の充実が期待できる。 ○SSH/SGHの事業を通常の教育活動として定着させることが求められる。 【課題】 1 「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を育てる「深い学び」の実現 ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業の工夫・改善 2 科学教育・国際理解教育・外国語教育の充実 ・SSH/SGH等の教育活動の充実と学習方法等の通常の教育活動への展開、外国語科の指導法等の普通科への拡大 3 Fプランの工夫・改訂・充実	1 高大接続システム改革等に対応できる指導法・学習方法への移行	・大学入試改革及び新学習指導要領に対応する教育課程実施のための方策の検討 ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践の研究	・対応策検討の進捗状況 ・研修会の実施状況 ・指導法及び学習方法の改善状況(自己評価シート・生徒アンケート等)	・来年度から実施する50分通年(3学期)制へ変更を完了した。 ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業を実践し、公開授業・研究協議を実施、『学習スタイル』に関する研修会を実施した。 ・保護者から高い評価を得た(工夫された授業:前年比6%増(アンケート))	・引き続き、高大接続システム改革等に対応できる指導法・学習方法の深化に向けた研究を進める。
		2 SSH/SGHにおける教育活動の検証とそれを生かした授業及び学習活動の改善、並びに外国語及び課題研究等の指導法の他教科への普及	・SSH/SGH課題研究の指導法及び評価法等の研究・充実、他教科等への普及 ・SSH/SGH事業にかかる指導方法の改善についての他教科へ拡大・発展 ・SGH指定期間終了後における発展的な教育活動の継続内容及び方法の検討	・各事業の生徒満足度の向上、意識や姿勢の変容(検証データ等) ・SGH等にかかる外国語科における指導及び授業評価法、課題研究の他の教育活動への普及状況(生徒アンケート等) ・Fプランの新計画(概要)の策定	・SSH、SGH生徒満足度は今後調査。保護者は9割以上が好評価。 ・SSH7年目、SGH3年目となり、各事業を受けたボートフォリオが充実し、3年次ではA0入試や自己推薦入試において、例年以上の成果を上げた。 ・入学直後の2カ月間、英語音声の徹底指導を実施。また、ルーブリックやポートフォリオ評価が外国語科専門科目で試行された。 ・Fプランの内容を、LHRと総合的な学習の時間を分けて実施することとなり、具体的内容の検討を開始した。	・SSH、SGHでの課題研究の手法を、更に校内に広げる。 ・新学習指導要領による評価方法の研究を更に深める。 ・総合的な学習の時間での探究活動の指導計画を作成する。
		3 グローバルリーダーとしての資質の育成	・Fプランや他の教育活動との連携による研究力・試行錯誤力・発表力を育成 ・ことばの力や資料活用力の育成	・生徒の意欲・資質の向上(SSH/SGH事業の検証結果等) ・図書貸し出し数の上昇及び学習活動における様々なデータの活用状況 ・授業での図書館等の活用頻度の増加	・SSH、SGH生徒意欲等は、今後調査予定。 ・図書館における生徒への貸出数は4,070冊で、昨年度同期と比較して909冊増。年間を通して一年生の利用が多かった。 ・図書館の授業利用は現在52時間で昨年度と同程度である。調べ学習のための利用が多いが、今年度は調べたものを発表する場として引き続き利用する科目もあった。	・探究活動の充実に伴い、資料の活用が大幅に増加することが見込まれる。予算計画の精査により、蔵書の更なる充実を図る。
		4 高大連携や海外連携、校外との連携を活かした教育活動の充実	・校外との連携事業の取組の、生徒・教職員を含めた全校体制化 ・教育課程の変更、SGH指定期間の終了、学習指導要領改訂を視野にLHR/『総合的な学習の時間』の指導計画等の見直し	・諸事業推進に関わる教職員の参加状況(実数)と意識の変化(自己評価シート) ・学科別・文理別の諸事業に参加する生徒の状況(参加実数等) ・Fプランの新計画(概要)の策定【再】	・諸事業(校外分)へ派遣した教員数のべ145人。意識変化は集約中。 ・3ヵ国視察受け入れ、対応を生徒主体で行った(のべ320名)。豪州姉妹校派遣30名、(県)米国派遣4名、(県)フィリピン派遣1名。(県)骨太事業派遣18名。SGHルーヴ派遣7名、SGHイノブ派遣10名。福島県と連携した教育旅行派遣30名。夏季海外研修プログラムに41名参加、IBリーグ大学生10名と社会問題に関するワークショップを実施。	・SGHで導入した各事業が、日常の教育活動へと発展させるよう、総合的な学習の時間(DFプラン)の実施内容を策定する。
2	【現状】 ○現役国公立大学合格に対する志向が強いが、安全志向もやや強い。 ○センター試験等で実力を発揮できない生徒もいる。 【課題】 1 キャリア教育の視点を持ち、強い進路意欲を育てる計画的な進路指導の充実 2 生徒の進路希望を実現させるための保護者や関係者等との連携 3 学力と進路希望に応じた個別または小集団別の指導の充実	1 高い進路目標を設定させ、実現させるための計画的な進路指導の実践	・学年、教科等と連携した地方国立大学も視野に入れた指導体制の整備 ・学問の面白さを伝え、生徒を鍛える授業の実践による進路実現意欲の醸成 ・校内連携の推進による学力強化と進路指導の拡充	・妥協のない進路目標の維持による生徒の進路意識の変化(面談、模試、生徒アンケート等)、 ・授業意欲、家庭学習、自主的学習の状況の改善(生徒アンケート等) ・受験状況及び受験結果等の向上	・1年進路学習12回、進路講話(1年3回、2年2回、3年7回)を実施した。 ・進学補習:1・2年は夏期、3年は夏期(55講座1580人参加)後期土曜・冬期に実施した。3年センター演習会2年チャレンジセンターを実施した。 ・予備校教員研修会に夏期18名、冬期14名が参加した。 ・『授業への集中』全学年で上昇、『授業後に教員へ質問に行く』が、1・2年次で上昇し、授業理解度が全学年で上昇した(【学】)。	・2年次では、塾を頼らない学習の定着が傾向として確認された【学】。引き続き、授業を中心とした指導による高い進路目標の進路実現を図る。
		2 高い進路希望を実現するための計画的で意欲的な学習姿勢の育成	・学年や分掌、委員会、学科や教科の連携による、自発的自律的学習者の育成と第一志望実現のための進路行事の拡充	・早朝登校者の増加、目標学習時間の達成度、進路希望の維持状況 ・学習意欲の向上(生徒アンケート等)	・10月期以降、英語朝補習に200名以上が参加(1年次)。 ・塾に頼らない学習への指導により、主体的学習が向上(2年次【学】) ・平日の学習時間上昇、自主的学習頻度の上昇(2・3年次【学】)	・現行の多様な学習課題を整理し、より効果の高い課題を課すよう、校内調整を図る。
		3 生徒に対する個別指導や相談、保護者に対する情報提供・相談の充実	・学年や分掌、委員会と連携した多様化する相談内容へのスムーズな対応	・教育相談活動の実施状況 ・学年会・企画委員会・職員会議等における情報共有の状況	・保健だよりを発行した情報提供の他、相談メールを開設した。 ・体育的な行事の前に学校医の問診を実施、事故なく行事を実施。 ・学年団との密な連携でカウンセリングにつなぐ支援(年10回)。	・相談メールの利用が少ないので、保健だよりを活用し相談メールの周知を図る。
3	【現状】 ○自尊心や部活動・学校行事への参加意欲が高く、本校生としてふさわしい行動をわきまえている。 ○公共の場所や休み時間等での自律心をさらに磨くことも必要である。 【課題】 1 本校生として品格ある態度やリーダーとして素養の育成 2 学業と部活動・学校行事との高いレベルで両立 3 地域や保護者から期待される交通マナー、学校内外での携帯電話マナー等の向上	1 学校内外での本校生徒としてふさわしい行動をとらせる指導の実践	・交通指導、自転車マナーアップの実施 ・携帯電話の使用ルールの周知・校内での使用についての指導	・交通マナーの改善(交通指導時の状況) ・携帯電話の校内使用規定の順守状況(観察、面談、生徒アンケート等)	・交通安全指導を年間4回実施、外部の苦情件数減少。 ・加須警察との連携事業「無事カエル」の配布、自転車マナーアップの推進。 ・携帯電話の使用マナーが、前年比で改善(教員による観察結果)。	・携帯電話利用ルールが生徒の声により策定された。更に自主的なマナーアップを支援する。
		2 リーダーとしての資質を涵養するための部活動や学校行事など特別活動の充実	・アンケート、目安箱、生徒総会の活用により学校行事への自主的取組を強化 ・部活動指導の継続、充実・発展 ・学校行事の取組状況	・不動岡高校生としての誇り、社会に貢献する意識等、行事に参加して高まった資質の向上(生徒アンケート等) ・部活動の部員数及び活動状況	・生徒が企画運営する学校行事が、学校祭等、活発に実施できた。 ・部活動は加入率が高く、主体的に充実して活動している状況。特に、陸上部、水泳部、箏曲部、新聞部が全国大会に、山岳部が関東大会に出場、吹奏楽部が西関東大会へ初出場し、校内の活気が増した。	・部活動の終了時間や完全下校時刻については概ね守られているが、更に徹底を目指したい。
		3 計画的で節度ある行動、文武両道を実践させるための指導の充実	・学年と連携した、人づくりと学力の土台づくりとしての生活指導の徹底 ・風紀委員会によるあいさつ運動実施 ・生徒清掃箇所の拡大と清掃指導を通じた生徒指導の充実	・全職員によるあいさつ指導や交通安全指導、清掃指導による生徒の意識の向上(観察・生徒アンケート等) ・あいさつ運動時及び日常的なあいさつ等の実施状況(観察) ・校内の美化状況(観察・分掌による総括)	・風紀委員会によるあいさつ運動について回数を増やして実施した。 ・いじめ防止アンケート年2回、保護者・生徒を対象に実施した。 ・新たな清掃箇所として、各教科研修室・百周年記念館を対象とした。 ・大掃除に際して生徒全員の参加を呼びかけ美化に努めた。 ・服装・時間厳守・挨拶・服装等、学校生活全般にわたって概ね自覚ある行動がとれていた(全年次)。	・他に範を示す行動が出来る本校生徒であるので、文武の両立がより高いレベルで実現できるような、育成を図る。
4	【現状】 ○HPや学校内外の説明会等を通じて積極的な情報提供・意識啓発がされている。 ○PTA活動や地域との交流事業を活用した貢献事業の充実が期待できる。 【課題】 1 教育活動の積極的かつ戦略的な広報活動による関係者の意識啓発 2 さまざまな機会をとらえた教職員や保護者、生徒等の交流を活用した本校の教育活動についての周知や地域貢献	1 HPや保護者会等での積極的な情報提供、保護者の意識啓発	・各分掌の連携した対外情報発信の充実 ・PTA本部及び支部業務の引継の徹底による事業の円滑運営と活動の活性化	・データの適時更新、整理状況とホームページの更新頻度の上昇による情報提供の適切さ ・PTA事業への保護者の参加数及び実施状況・実施後の意識向上(渉外部総括)	・HPのニュースはほぼ毎日更新されている。 ・説明会ページのQRコードを作成し、進学フェアで申込に活用した。 ・8月と10月の学校説明会で保護者対象の相談室を設置しPTAに対応した。 ・11月進路見学会(東京大学)へ保護者が74名参加し盛況であった。 ・ソフトボール大会のメニュー作成による運営で、円滑化が図られた。	・PTAの地区構成について、居住地実態に沿った再編成に向けて研究に着手する。 ・他行事のメニューを整理し、円滑な運営化を更に進める。
		2 学校説明会等での本校の魅力発信と中学生及び保護者に対する意識啓発	・「本校生徒の顔」の見える化 ・中学2年生以下への新企画の実施 ・生徒募集活動の充実	・学校案内の改訂、学校説明会の改善 ・新企画の実施及び参加状況 ・中学生減少を見込んだ募集地域の拡大	・学校案内の「在校生の声」の拡大・進路指導ページ的大幅変更。 ・進学フェアの運営方法改善により、ブース対応数は昨年の約1.5倍。 ・中2生対象の英会話教室・アプリ開発教室に100名参加(新規)。	・個々の募集活動が中学生の受験準備段階にその都度見合うよう工夫改善を図る。
		3 本校の教育活動を生かした地域連携・地域貢献	・地域の科学・国際理解教育・スポーツ等の核を目指す各事業の実施	・市民大学、小中学校との交流、出前授業、サイエンス教室、中学生対象のワークショップ等の計画及び実施状況	・市民大学講座、成人向け4講座、小学生向け2講座を実施。 ・物理、英語の中学校での出前授業(計2回)。 ・サイエンス教室で、英・独語の講座を新規に実施(小中生対象)。	・小学生を対象とした講座の実施内容を整理し、中2対象の新規企画を策定する。

・生徒個々の進路目標に向け、しっかりと進路指導体制が整っていることに安心した。
 ・SSHやSGH事業による教育活動が、進路実現に直結していることは大きく評価したい。
 ・大学入試改革への対応として、教科横断的な知識の育成が求められており、具体的な対応を期待する。

・本校生徒が、学校生活が意義深いものになるようしっかりと主体的に取り組んでいることが分かった。
 ・風紀を維持するためには、生徒の主体性による自主的管理と、生徒が易きに流されないよう学校が管理すべき場面と見極めた対応が必要である。ルールの意味を生徒に十分に考えさせた上で、指導を進めて欲しい。

・『ファンを増やす』目標設定は、第三者評価で好評であった。本校生徒の活動の様子を小中学生や地域の方に示す場面に更に増やし、生き生きと活躍する本校生が『憧れの存在』になるよう期待する。
 ・PTA関係について、市町村別在籍生徒数の割合に応じた地区割振りの検討を進めたい。